

(様式第10)

奈 医 病 管 第 1 1 4 号
令 和 2 年 1 0 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名
公立大学法人奈良県立医科大学
理事長 細井 裕司 (印)

奈良県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 634-8521 奈良県橿原市四条町840番地
氏 名	公立大学法人奈良県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

奈良県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒 634-8522 奈良県橿原市四条町840番地	電話(0744) 22-3051
---------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☐ 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
☐ 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	☒ 有 ・ ☐ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	2 消化器内科
3 循環器内科	4 腎臓内科
5 神経内科	6 血液内科
7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
11 リウマチ科	
診療実績 「呼吸器内科」「血液内科」「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は呼吸器・アレルギー・血液内科で、「消化器内科」「代謝内科」の診療内容は消化器・代謝内科で、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病・内分泌内科で、「神経内科」の診療内容は脳神経内科で、「感染症内科」の診療内容は「感染制御内科」で、「リウマチ科」の診療内容は整形外科で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☐ 有 ・ ☒ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	2 消化器外科
3 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
7 内分泌外科	8 小児外科
診療実績 「消化器外科」「乳腺外科」「小児外科」の診療内容は消化器外科・小児外科・乳腺外科で、「内分泌外科」の診療内容は耳鼻咽喉・頭頸部外科で提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科
⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☐ 有 ・ ☒ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
3 口腔外科	
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 感染制御内科	2 消化器・代謝内科	3 呼吸器・アレルギー・血液内科	4 脳神経内科	5 消化器外科・小児外科・乳腺外科
6 耳鼻咽喉・頭頸部外科	7 形成外科	8 歯科口腔外科	9 病理診断科	10 リハビリテーション科
11 糖尿病・内分泌内科	12 腫瘍内科	13	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
108 床	9 床	0 床	0 床	875 床	992 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	510 人	154.0 人	560.9 人	看護補助者	43 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	25 人	11.0 人	27.2 人	理学療法士	33 人	臨床検査技師	88 人
薬剤師	62 人	7.0 人	66.0 人	作業療法士	10 人	衛生検査技師	0 人
保健師	1 人	1.0 人	1.6 人	視能訓練士	7 人	その他	0 人
助産師	62 人	1.0 人	62.1 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看護師	1,002 人	25.0 人	1,017.5 人	臨床工学士	42 人	医療社会事業従事者	35 人
准看護師	1 人	0.0 人	1.0 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	1 人
歯科衛生士	5 人	1.0 人	5.9 人	歯科技工士	3 人	事 務 職 員	265 人
管理栄養士	10 人	2.0 人	11.8 人	診療放射線技師	59 人	その他の職員	0 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総 合 内 科 専 門 医	65 人	眼 科 専 門 医	10 人
外 科 専 門 医	50 人	耳鼻咽喉科専門医	15 人
精 神 科 専 門 医	19 人	放 射 線 科 専 門 医	30 人
小 児 科 専 門 医	24 人	脳神経外科専門医	20 人
皮 膚 科 専 門 医	10 人	整 形 外 科 専 門 医	37 人
泌 尿 器 科 専 門 医	10 人	麻 酔 科 専 門 医	26 人
産 婦 人 科 専 門 医	22 人	救 急 科 専 門 医	12 人
		合 計	350 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (吉川 公彦) 任命年月日 令和2年 4月 1日

医療安全管理責任者 (平成30年4月1日～令和2年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	770.0 人	19.0 人	789.1 人
1日当たり平均外来患者数	2,243.6 人	122.9 人	2,366.6 人
1日当たり平均調剤数	4,256.0 剤		
必要医師数	209.0 人		
必要歯科医師数	10.0 人		
必要薬剤師数	54.0 人		
必要（准）看護師数	474.0 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設等建設設備						
施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	580.06 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	24 床	心電計	☒ 有 ・ ☐ 無
			人工呼吸装置	☒ 有 ・ ☐ 無	心細動除去装置	☒ 有 ・ ☐ 無
			その他の救急蘇生装置	☒ 有 ・ ☐ 無	ペースメーカー	☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積		263.60 m ²	病床数	21 床	
	[移動式の場合] 台 数		m ²	病床数	床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積		67.90 m ²			
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	194.60 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	尿検査システム等		
細菌検査室	174.10 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析システム等		
病理検査室	176.70 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体搬送システム等		
病理解剖室	226.20 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電動解剖ノコクリーンカットシステム等		
研究室	1,589.40 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	各種 実験・研究装置等		
講義室	460.40 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	317 人
図書室	1,303.10 m ²	鉄筋コンクリート	室数	5 室	蔵書数	143,379 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		93.20 %	逆紹介率	91.90 %
算出根拠	A：紹介患者の数	19,523 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	22,229 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3,028 人		
	D：初診の患者の数	24,199 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学	○	和歌山県立医科大学附属病院医療安全推進室長であり、医療にかかる安全に関する見識を有するため。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
加藤 高志	加藤高志法律事務所		医療に関する訴訟経験が豊富であり、法律に関する見識を有するため。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
松井 忠昭	ボランティアグループ ラポール		病院の状況への理解が深く、医療を受ける側の立場からの客観的意見を得られるため。	☐ 有 ・ ☒ 無	2
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
病院ホームページでの公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
血中TARC濃度の迅速測定	41人
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	31人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 提供実績なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	56	ベーチェット病	29
2	筋萎縮性側索硬化症	38	57	特発性拡張型心筋症	91
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	35
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	19	60	再生不良性貧血	39
6	パーキンソン病	258	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	7	63	特発性血小板減少性紫斑病	52
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
10	シャルコー・マリー・トウス病	5	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	85	66	IgA 腎症	99
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	44
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	68	68	黄色靱帯骨化症	11
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	21	69	後縦靱帯骨化症	45
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	68
17	多系統萎縮症	25	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	77	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	10	74	下垂体性PRL分泌亢進症	17
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	7	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	37	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	16
23	プリオン病	3	78	下垂体前葉機能低下症	92
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	27	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	55
30	遠位型ミオパチー	4	85	特発性間質性肺炎	37
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	19
32	自己食空腔性ミオパチー	0		肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	24	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	13	90	網膜色素変性症	12
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	11	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	93
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	23	95	自己免疫性肝炎	19
41	巨細胞性動脈炎	8	96	クローン病	67
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	178
43	顕微鏡的多発血管炎	53	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	10	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	14	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	213	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	110	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	87	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	31	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	35	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	8	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0
	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	4	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	20
113	筋ジストロフィー	31	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0

121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	1
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	2	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	0
疾 患 名		患者数	疾 患 名		患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェ ラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無 β リポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	4	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アク ネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	84	270	慢性再発性多発性骨髓炎	0
223	一次性腹性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	9	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	6	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病 変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロ フィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球癆	2

236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	6
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メーブルシロップ尿症	3	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性腭炎	1
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	14
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	4
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	2
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトースー1ーリン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	2
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	2
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	3
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料	ハイリスク分娩管理加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科外来診療環境体制加算2	病棟薬剤業務実施加算1及び2
歯科診療特別対応連携加算	データ提出加算
救急医療管理加算	入退院支援加算
超急性期脳卒中加算	認知症ケア加算
診療録管理体制加算2	精神疾患診療体制加算
医師事務作業補助体制加算1 40対1	排尿自立支援加算
50対1急性期看護補助体制加算	地域医療体制確保加算
看護職員夜間配置加算1 12対1	救命救急入院料3及び4
看護補助加算	特定集中治療室管理料1
療養環境加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
重症者等療養環境特別加算	総合周産期特定集中治療室管理料
無菌治療室管理加算1及び2	新生児治療回復室入院医療管理料
緩和ケア診療加算	一類感染症患者入院医療管理料
精神科応急入院施設管理加算	小児入院医療管理料1
精神病棟入院時医学管理加算	精神科救急入院料1
精神科身体合併症管理加算	精神科救急・合併症入院料
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染防止対策加算1	
患者サポート体制充実加算	
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
ハイリスク妊娠管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	医療機器安全管理料(歯科)
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	精神科退院時共同指導料1及び2
糖尿病合併症管理料	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
がん患者指導管理料イ	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
がん患者指導管理料ロ	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
がん患者指導管理料ハ	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
がん患者指導管理料ニ	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
外来緩和ケア管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	骨髓微小残存病変量測定
糖尿病透析予防指導管理料	BRCA1/2遺伝子検査
小児運動器疾患指導管理料	がんゲノムプロファイリング検査
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	先天性代謝異常症検査
婦人科特定疾患治療管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
腎代替療法指導管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
外来放射線照射診療料	検体検査管理加算(Ⅰ)
療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	検体検査管理加算(Ⅳ)
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	国際標準検査管理加算
がん治療連携計画策定料	遺伝カウンセリング加算
外来排尿自立指導料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
肝炎インターフェロン治療計画料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ハイリスク妊産婦連携指導料1	胎児心エコー法
ハイリスク妊産婦連携指導料2	ヘッドアップティルト試験
薬剤管理指導料	人工臓器検査、人工臓器療法
医療機器安全管理料1	長期継続頭蓋内脳波検査
医療機器安全管理料2	長期脳波ビデオ同時記録検査1

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
単線維筋電図	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
光トポグラフィー	外来化学療法加算1
終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	無菌製剤処理料
脳波検査判断料1	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
ロービジョン検査判断料	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
小児食物アレルギー負荷検査	がん患者リハビリテーション料
内服・点滴誘発試験	歯科口腔リハビリテーション料2
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	児童思春期精神科専門管理加算
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	療養生活環境整備指導加算
経気管支凍結生検法	救急患者精神科継続支援料
有床義歯咀嚼機能検査1のイ	認知療法・認知行動療法1
有床義歯咀嚼機能検査2のイ	精神科作業療法
精密触覚機能検査	精神科ショート・ケア「大規模なもの」
画像診断管理加算1	精神科ショート・ケア「小規模なもの」
画像診断管理加算2	精神科デイ・ケア「大規模なもの」
遠隔画像診断	精神科デイ・ケア「小規模なもの」
ポジトロン断層撮影	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	医療保護入院等診療料
CT撮影及びMRI撮影	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
冠動脈CT撮影加算	硬膜外自家血注入
外傷全身CT加算	エタノールの局所注入(甲状腺)
心臓MRI撮影加算	エタノールの局所注入(副甲状腺)
乳房MRI撮影加算	人工腎臓
小児鎮静下MRI撮影加算	導入期加算2及び腎代替療法実績加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
CAD/CAM冠	経カテーテル大動脈弁置換術
歯科技工加算1及び2	経皮的な中隔心筋焼灼術
センチネルリンパ節加算	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
皮膚移植術(死体)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
椎間板内酵素注入療法	補助人工心臓
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	経皮的な下肢動脈形成術
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工中耳植込術	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	腹腔鏡下肝切除術
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	生体部分肝移植術
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下腭頭部腫瘍切除術
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡下筋層切開術	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)等、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	1回線量増加加算
腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療(IMRT)
同種死体腎移植術	画像誘導放射線治療(IGRT)
生体腎移植術	体外照射呼吸性移動対策加算
膀胱水圧拡張術	定位放射線治療
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	画像誘導密封小線源治療加算
人工尿道括約筋植込・置換術	保険医療機関間の連携による病理診断
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
腹腔鏡下仙骨腫固定術	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	デジタル病理画像による病理診断
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	病理診断管理加算2
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	口腔病理診断管理加算2
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	悪性腫瘍病理組織標本加算
遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術	クラウン・ブリッジ維持管理料
輸血管管理料Ⅰ	歯科矯正診断料
貯血式自己血輸血管管理体制加算	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
自己生体組織接着剤作成術	
同種クリオプレシピテート作製術	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
麻酔管理料(Ⅰ)	
麻酔管理料(Ⅱ)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定
・腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	概ね週1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 40 例 / 剖検率 6.6 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自閉スペクトラム症における前頭前野機能の多面的解析とその正常化への試み	牧之段 学	精神医学	3,510,000	補	文部科学省
血友病A分子病態の解明と第VIII因子高機能化に関する研究	嶋 緑倫	小児科学	4,810,000	補	文部科学省
多次元解析による神経性無食欲症のサイコバイオティクスの同定:治療薬の創発に向けて	岸本 年史	精神医学	2,210,000	補	文部科学省
高LET放射線と抗VEGF抗体の併用によるグリオーマ幹細胞制御機構の解明	長谷川 正俊	放射線腫瘍医学	4,420,000	補	文部科学省
EGFR ^{vIII} 特異的CAR発現iPS由来NK細胞を用いた膠芽腫治療の基盤的研究	中瀬 裕之	脳神経外科学	2,340,000	補	文部科学省
慢性腎臓病に合併する心不全発症におけるアフターロードミスマッチの分子機序の解明	斎藤 能彦	循環器内科学	6,500,000	補	文部科学省
難治性消化器癌に対する治療抵抗性克服による新規集学的免疫治療戦略の開発	庄 雅之	消化器・総合外科学	5,070,000	補	文部科学省
術後生活機能障害の5年間追跡調査とプレハビリテーションプログラムの有効性評価	川口 昌彦	麻酔科学	5,850,000	補	文部科学省
幼少期社会的経験が形づくる前頭前野-視床回路の同定	牧之段 学	精神医学	3,900,000	補	文部科学省
スポーツの種類や選手個人の特性を考慮した重力感受性トレーニング法の開発	和田 佳郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,170,000	補	文部科学省
多系統萎縮症に合併する睡眠呼吸障害の多様性—呼吸管理から生命予後改善をめざす—	山内 基雄	呼吸器内科学	1,170,000	補	文部科学省
Drug repositioning による肝疾患進展抑制治療法の開発	吉治 仁志	消化器内科学	1,300,000	補	文部科学省
NASH発症進展に関わる腸内細菌の影響とエクオールの効果	野口 隆一	消化器内科学	1,300,000	補	文部科学省
重症大動脈弁狭窄症に合併する消化管出血のフォンビレブランド因子による病態解析	早川 正樹	輸血部	1,690,000	補	文部科学省
肺線維症合併肺癌に対する制御性T細胞を標的とした新たな治療戦略の探索	本津 茂人	呼吸器内科学	910,000	補	文部科学省
APCおよびPSによる第VIII因子制御機構の解明および新規血友病製剤への応用	武山 雅博	小児科学	1,170,000	補	文部科学省
血流下での血管内皮細胞の応答機構と血液凝固第VIII因子の機能発現	志田 泰明	小児科学	1,170,000	補	文部科学省
フォン・ウィルブランド因子D'D3ドメインー塩基多型の分子生物学的解析	荻原 建一	小児科学	1,430,000	補	文部科学省
ウイルス由来microRNAに着目したDIHSの病態解明と新規診断法の開発	浅田 秀夫	皮膚科学	1,170,000	補	文部科学省
ナノドラッグデリバリーシステムと分子イメージングを融合させた新規IVR治療の開発	西尾福 英之	放射線医学	1,430,000	補	文部科学省
前頭眼野(FEF)刺激による術中誘発眼球運動モニタリング(PEEM)の開発	本山 靖	脳卒中センター	520,000	補	文部科学省
骨癒合性を付与したPEEK製脊椎インプラントの研究	古川 彰	整形外科	780,000	補	文部科学省
生体内誘導骨形成膜とハイブリッド人工骨の融合による新規骨再建法の開発	河村 健二	玉井進記念四肢外傷センター	1,300,000	補	文部科学省
障害骨組織における再生遺伝子Regの発現動態の解析および骨再生促進法の開発	藤間 保晶	整形外科	1,560,000	補	文部科学省
膀胱における尿再吸収機構の解明—夜間頻尿治療への応用を目指す研究—	鳥本 一匡	泌尿器科学	1,300,000	補	文部科学省

小計 25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨髄由来免疫抑制細胞と卵巣癌幹細胞による癌免疫逃避機構の解明とその克服	馬淵 誠士	産婦人科学	1,170,000	補	文部科学省
HE4とTFPI2の組み合わせによる卵巣明細胞癌早期発見法	新納 恵美子	産婦人科学	1,820,000	補	文部科学省
軟骨伝導補聴器のハウリングのメカニズムの解明とその防止	西村 忠己	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,950,000	補	文部科学省
耳鳴発生時の内耳細胞内分子動態の解明と内耳を舞台とした新規治療法の開発	北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	650,000	補	文部科学省
頭頸部がん微小環境におけるがん幹細胞のEMTを介した浸潤・転移機構の解明	太田 一郎	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,430,000	補	文部科学省
再発頭頸部癌に対する硼素中性子捕捉療法の標準治療化におけるバイオマーカーの探索	上村 裕和	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,560,000	補	文部科学省
ラマン分光法を用いた新たな早期口腔癌診断システムの開発	松末 友美子	口腔外科学	1,690,000	補	文部科学省
口腔がんに対するリンパ球と分子標的薬を併用した新規免疫細胞療法の確立	玉置 盛浩	口腔外科学	1,300,000	補	文部科学省
膀胱癌特異的なマイクロRNAおよび遺伝子発現機序に基づいた病理組織学的診断の確立	藤井 智美	病理診断学	1,170,000	補	文部科学省
脾臓髄外造血制御とその破綻の分子機構解明と造血幹細胞培養系の確立	小田 朗永	小児科学	1,560,000	補	文部科学省
癌の増大と転移へのADAMTS13/VWF 因子の影響	西尾 健治	総合医療学	1,820,000	補	文部科学省
切除不能・再発肝癌に対するミセル化ナノ粒子を用いた肝動注療法の開発	田中 利洋	放射線医学	1,300,000	補	文部科学省
血液凝固における第Ⅷ因子制御軸の解明とⅧ友病A及び血栓性疾患の新規治療薬への応用	野上 恵嗣	小児科学	1,300,000	補	文部科学省
心筋疾患に対する新たな臨床応用可能な核酸医療薬の開発と評価	尾上 健児	循環器内科学	1,430,000	補	文部科学省
心臓交感神経イメージング法を用いた右心不全に対する治療効果判定および予後評価	笠間 周	臨床研究センター	1,560,000	補	文部科学省
慢性腎臓病高齢者を対象とした認知機能障害と動脈硬化に関する縦断的コホート研究	鶴屋 和彦	腎臓内科学	1,820,000	補	文部科学省
トリプルネガティブ乳癌における新規免疫不活化経路阻害分子探索および治療への展望	池田 直也	消化器・総合外科学	1,690,000	補	文部科学省
肺癌手術症例における hybrid E/M の臨床病理学的探索	安川 元章	胸部・心臓血管外科学	910,000	補	文部科学省
胸部大動脈人工血管置換術中のレーザースペックルフローグラフィによる眼血流測定	林 浩伸	麻酔科学	1,170,000	補	文部科学省
スーパーオキシドリッチ環境が脳虚血再還流に与える影響	井上 聡己	集中治療部	910,000	補	文部科学省
CD44のバリエーションアイソフォームをターゲットとした子宮内膜症の新規治療法の確立	小川 憲二	産婦人科学	910,000	補	文部科学省
子宮内膜症の微小環境における酸化還元反応のバランス変化に基づく発癌仮説の構築	山田 有紀	産婦人科学	1,430,000	補	文部科学省
メニエール病診断法の開発ー内リンパ水腫の新しい評価法の確立ー	北野 公一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	910,000	補	文部科学省
新規耳鳴治療のための耳鳴動物実験モデルの確立	山下 哲範	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,300,000	補	文部科学省
眼の加齢性変化と全身因子、生活環境、QOL	緒方 奈保子	眼科学	1,560,000	補	文部科学省
口腔癌における反復配列RNAの発現と機能の解明	山本 一彦	口腔外科学	1,560,000	補	文部科学省
即時荷重インプラントの荷重下で生じるマイクロモーションの定量的予測と最適治療指針	杉浦 勉	口腔外科学	1,690,000	補	文部科学省
MIA2関連シグナルを標的とした口腔癌の分子診断・治療の新展開	栗原 都	口腔外科学	1,690,000	補	文部科学省
顎顔面の形態発生を制御する新規シグナル伝達機構	川上 正良	口腔外科学	1,300,000	補	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	城戸 顕	リハビリテーション科	780,000	補	文部科学省
悪性中皮腫に発現するHEG1の制御に関わるマイクロRNAの探索と分子機序の解明	伊丹 弘恵	病理診断学	2,340,000	補	文部科学省
ヒト脳オルガノイドを用いた神経変性疾患を引き起こすリピート病の病態解析	桐山 敬生	脳神経内科学	1,950,000	補	文部科学省
マクロファージとヒトiPSニューロン共培養系による統合失調症・ASD病態解析	鳥塚 通弘	精神医学	1,430,000	補	文部科学省
社会的隔離モデルによる社会性の神経回路の同定 内側前頭前野ー橋ー小脳を中心に	芳野 浩樹	精神医学	1,170,000	補	文部科学省
下肢動脈カルシウムスコアとPAD治療予後に関する前向きコホート研究	吉川 公彦	放射線医学	2,080,000	補	文部科学省
肝細胞癌TACEにおける多孔性ガラス膜新規乳化デバイスの製品化に向けた開発	正田 哲也	放射線医学	1,170,000	補	文部科学省
凝固線溶バランスを基盤とした小児がん血栓症に対する新規テーラーメイド治療の確立	石原 卓	小児科学	1,430,000	補	文部科学省
肺線維症患者に対する同業系幹細胞療法の臨床応用を目指した有効な新規マーカーの探索	熊本 牧子	呼吸器内科学	1,820,000	補	文部科学省
消化管虚血再還流障害による癌転移促進のメカニズムの解明と転移抑制治療への応用	若月 幸平	消化器・総合外科学	1,430,000	補	文部科学省
消化器癌進展におけるE3ユビキチンリガーゼ発現異常の役割解明	右田 和寛	消化器・総合外科学	1,170,000	補	文部科学省
T細胞不活化経路をターゲットとした腫瘍免疫療法と抗腫瘍薬を併用した新規治療の開発	北東 大督	消化器・総合外科学	1,690,000	補	文部科学省
肛門病変検体を用いたT細胞不活化によるクローン病新規免疫療法探求	久下 博之	消化器・総合外科学	1,430,000	補	文部科学省
敗血症における原因菌の迅速同定技術の開発	川井 廉之	救急医学	1,820,000	補	文部科学省
間葉系幹細胞シートを用いた神経束移植における新規治療法の確立	田中 康仁	整形外科学	1,170,000	補	文部科学省
MRスペクトロスコピーを用いて子宮内膜症の悪性化を早期に予測する新規検査法の確立	吉元 千陽	総合周産期母子医療センター母体・胎児集中治療部門(MFICU)	1,820,000	補	文部科学省
妊娠高血圧症候群の胎盤形成におけるインブリンティング遺伝子の関与	常見 泰平	産婦人科学	1,690,000	補	文部科学省
Danger Signal抑制によるHDP悪化遅延と新生児周産期予後の改善	成瀬 勝彦	産婦人科学	1,430,000	補	文部科学省
ABRを用いた新しい軟骨伝導補聴器の装用効果評価法	森本 千裕	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,040,000	補	文部科学省
下肢足圧の中心動揺と荷重量による定量的体平衡検査法の開発	山中 敏彰	めまいセンター	1,950,000	補	文部科学省
緑内障が生体リズムへ与える影響の検討	吉川 匡宣	眼科学	1,560,000	補	文部科学省
DNA修復経路と細胞内物質輸送を標的とした口腔がん治療法の開発	桐田 忠昭	口腔外科学	1,170,000	補	文部科学省
帝王切開術における選択的・個別的な肺血栓塞栓症予防効果の検証と医療経済的評価	川口 龍二	産婦人科学	1,430,000	補	文部科学省
早期軟骨病変に対する3次元軟骨定量評価法に関する研究	小川 宗宏	整形外科学	2,210,000	補	文部科学省
細胞ソート工法を応用した乳がん腫瘍幹細胞による唇顎口蓋裂患者の新規顎裂治療法の開発	柳生 貴裕	口腔外科学	1,170,000	補	文部科学省
FFFビームによる高線量率外部照射における治療効果の検討	藤谷 信将	中央放射線部	650,000	補	文部科学省

小計 26

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
麻酔関連薬剤の長時間曝露が口腔癌細胞の生存に影響を与えるか？	西和田 忠	集中治療部	1,170,000	補	文部科学省
めまい平衡障害モデルマウスの開発と平衡リハビリテーションへの応用	伊藤 妙子	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	650,000	補	文部科学省
早期緑内障と生体リズムに関する大規模コホート研究	宮田 季美恵	眼科学	1,300,000	補	文部科学省
急性呼吸促進症候群におけるヒストンメチル化酵素Setdb2の役割と臨床的意義	園部 奨太	集中治療部	1,040,000	補	文部科学省
顎骨における放射線性骨壊死の制御を目的とした間葉系幹細胞の研究	上山 善弘	口腔外科学	1,040,000	補	文部科学省
前腕骨における骨折・脱臼と靱帯損傷の関連	速水 直生	整形外科	1,040,000	補	文部科学省
重症脊髄損傷に対するナノテクノロジーと細胞シート工学のハイブリッド治療法の開発	奥田 哲教	救急医学	1,040,000	補	文部科学省
ピーズTAE後の血行動態の解明とパラメトリックイメージングによる効果判定の確立	南口 貴世介	放射線医学	2,080,000	補	文部科学省
世界初の酸化的DNA損傷抗体を用いた肝動脈化学塞栓術におけるDNA損傷蓄積の評価	立元 将太	放射線医学	1,690,000	補	文部科学省
凍結肩に対する新規低侵襲治療に関する研究：作用機序の解明と効果の画像評価法の確立	田口 秀彦	放射線医学	1,820,000	補	文部科学省
川崎病の病態・合併症におけるVWF-ADAMTS13軸の解明及び新規治療薬の開発	辻井 信之	小児科学	1,040,000	補	文部科学省
包括的凝固線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固の新規診断法の確立	大西 智子	小児科学	1,300,000	補	文部科学省
NASHに対する胆汁酸受容体TGR5の活性化と既存薬剤を応用した新規治療法の開発	賀屋 大介	消化器内科学	1,820,000	補	文部科学省
慢性腎臓病におけるPIGFとsFlt-1の発現不均衡に関する機序の解明	中田 康紀	循環器内科学	1,690,000	補	文部科学省
心臓局所のネプリライシンがANP系のパラクライン作用を減弱する機序の解明	中川 仁	循環器内科学	1,300,000	補	文部科学省
脈波自由行動下血圧計による冬季入浴中の血圧の実態調査	田井 義彬	総合医療学	1,300,000	補	文部科学省
糖尿病におけるマクロファージによる尿細管障害とアルブミン再吸収障害の機序の解明	江里口 雅裕	腎臓内科学	1,430,000	補	文部科学省
糖尿病性腎症での腎組織内小血管病変と大血管病である心血管イベントとの関連の検討	鮫島 謙一	腎臓内科学	520,000	補	文部科学省
新規抗動脈硬化因子可溶性Flt-1による腎硬化症の発症機序解明と臨床的展開	松井 勝	腎臓内科学	1,040,000	補	文部科学省
分子標的治療薬による皮膚障害における表皮自然免疫応答の研究	御守 里絵	皮膚科学	1,690,000	補	文部科学省
大腸内視鏡的粘膜下層剥離術における遊離腫瘍細胞と局所再発に関する研究	井上 隆	中央内視鏡部	1,690,000	補	文部科学省
疼痛鈍麻の表現型を示す遺伝子改変マウスの包括的遺伝子解析から新たな疼痛因子を探る	新城 武明	中央手術部	1,820,000	補	文部科学省
PD-1遺伝子破壊EGFRvIII特異的CAR-T細胞による膠芽腫治療法の開発	中澤 務	脳神経外科学	1,820,000	補	文部科学省
間葉系幹細胞の酸素濃度変化に着目した変形性膝関節症の病態解明	稲垣 有佐	整形外科	650,000	補	文部科学省
間葉系幹細胞シートと組織移植を融合させたハイブリッド型自家神経作成の試み	清水 隆昌	整形外科	1,040,000	補	文部科学省
高度前庭障害に対する多能性幹細胞を用いた細胞移植治療の開発	阪上 雅治	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,040,000	補	文部科学省
即時荷重インプラントオーバーデンチャーにおける微小動揺の予測とプロトコルの確立	堀田 聡	口腔外科学	1,690,000	補	文部科学省
核一細胞間輸送に関与する受容体を標的とした口腔がん治療の基礎研究	仲川 洋介	口腔外科学	1,300,000	補	文部科学省

小計 28

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ロールシャッハ・テストと唾液中ストレスバイオマーカーによるARMSの同定法の検討	岸本 直子	精神医学	1,170,000	補	文部科学省
平坦型尿路上皮腫瘍の鑑別に有用なマイクロRNAおよび関連分子の発現機序の解明	森田 剛平	病理診断学	2,080,000	補	文部科学省
ドラッグデリバリーシステムを応用した腎毒性を軽減できるナノノード造影剤の開発	越智 朋子	放射線医学	2,470,000	補	文部科学省
リピート異常に起因する神経筋疾患の病態解明	塩田 智	脳神経内科学	1,560,000	補	文部科学省
Danon病のヒト病態モデルを用いた解析	井口 直彦	脳神経内科学	1,170,000	補	文部科学省
注意欠如・多動症のheterogeneityに関する多面的検討	中西 葉子	精神医学	780,000	補	文部科学省
自閉スペクトラム症のPTSD様症状の神経基盤に関する研究	北村 聡一郎	精神医学	1,430,000	補	文部科学省
社会経験の剥奪による前頭前野の機能障害の起点となる神経細胞の解明	岡村 和哉	精神医学	1,170,000	補	文部科学省
陽子線の生物学的効果比と放射線肺臓炎の関係：機能画像、放射化画像の応用による解明	三浦 幸子	放射線腫瘍医学	1,820,000	補	文部科学省
血液凝固因子であるVWFを用いた肝細胞癌新規治療法と新規バイオマーカーの開発	高谷 広章	消化器内科学	1,300,000	補	文部科学省
肝内胆管癌に対するNOTCH/YAP経路のクロストーク制御を介する新規治療の開発	才川 宗一郎	中央内視鏡部	1,560,000	補	文部科学省
NASH進展に対するFXR作動薬を用いたカクテル療法の可能性	関 建一郎	消化器内科学	1,430,000	補	文部科学省
呼吸波形解析を活用してCOPDの呼吸困難を読み解く—新たな呼吸法開発を目指して—	藤田 幸男	呼吸器内科学	1,040,000	補	文部科学省
薬剤性過敏症候群発症後にヒトヘルペスウイルス6の持続感染をきたした症例の検討	西村 友紀	皮膚科学	1,690,000	補	文部科学省
新規von Willebrand因子阻害アプタマーの血栓形成阻害効果の多面的検討	酒井 和哉	輸血部	2,080,000	補	文部科学省
小児固形癌における獲得免疫機構の統合的解析	洲尾 昌伍	消化器・総合外科学	1,430,000	補	文部科学省
ADAMTS13関連因子を軸とした肝虚血再灌流障害に対する新規治療戦略	吉川 高宏	消化器・総合外科学	780,000	補	文部科学省
ユビキチン修飾系を標的とした新規食道癌治療法の臨床導入を目的とした研究	國重 智裕	腫瘍センター	1,950,000	補	文部科学省
CD200をターゲットとした大腸癌肝転移に対する新規治療法の開発	松尾 泰子	消化器・総合外科学	1,170,000	補	文部科学省
膵癌におけるCD70発現の意義の解明と新規治療の開発	中村 広太	消化器・総合外科学	1,950,000	補	文部科学省
CD200陽性大腸癌細胞の機能解析による新規大腸癌治療の開発	岩佐 陽介	消化器・総合外科学	1,560,000	補	文部科学省
全身麻酔下のVEPモニタリングにおける振幅低下時の最適警告基準の検討	植村 景子	中央手術部	1,820,000	補	文部科学省
メンブレントラフィックに着目した新たな疼痛メカニズムの解明	寺田 雄紀	麻酔科学	780,000	補	文部科学省
術後関節拘縮および癒着に対する合成吸収性癒着防止剤による新規予防法の開発	吉良 務	整形外科科学	650,000	補	文部科学省
口腔衛生が免疫チェックポイント阻害薬の奏功性に及ぼす影響	中嶋 千恵	口腔外科学	1,170,000	補	文部科学省
めまい平衡リハビリの客観的評価法の確立と効果的なリハビリプログラム開発への応用	塩崎 智之	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	3,120,000	補	文部科学省
超音波加温時の音速変化率の測定による、癌治療効果の早期予測	齊藤 夏彦	放射線医学	2,340,000	補	文部科学省
統合失調症者が笑いながら楽しく取り組む認知機能リハビリテーションCATの効果検証	木納 潤一	精神医学	780,000	補	文部科学省
膵癌に対するCD200を標的とした小分子化合物の探索と新規治療戦略の開発	庄 雅之	消化器・総合外科学	3,250,000	補	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ヒト大脳・中脳オルガノイドを用いた小児難治性てんかんの病態解明	絹川 薫	脳神経内科学	1,430,000	補	文部科学省
経頭蓋磁気刺激による脳内メカニズムの解明	眞野 智生	リハビリテーション科	650,000	補	文部科学省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究(H29-難治等(難)-一般-028)	浅田 秀夫	皮膚科学	1,000,000	補	厚生労働省
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実に資する研究(19HA1005)	笠原 敬	感染症センター	400,000	補	厚生労働省
希少難治性筋疾患に関する調査研究(H29-難治等(難)-一般-030)	杉江 和馬	脳神経内科学	1,300,000	補	厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究(H29-難治等(難)-一般-012)	松本 雅則	輸血部	1,100,000	補	厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究(H29-難治等(難)-一般-034)	斎藤 能彦	循環器内科学	350,000	補	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究(H29-難治等(難))	北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	500,000	補	厚生労働省
肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究	吉治 仁志	第三内科学	2,000,000	補	厚生労働省
早老症の医療水準やQOL向上を目指す集学的研究(H30-難治等(難)-一般-009)	谷口 晃	整形外科	200,000	補	厚生労働省
神経難病における中枢神経感作のメカニズム研究とアンメットニーズに応える革新的治療法の開発	眞野 智生	リハビリテーション科	7,335,000	補	厚生労働省
機械的補助循環に合併する後天性von Willebrand症候群の治療法の開発(19ek0109246h0003)	松本 雅則	輸血部	26,260,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
血管化ヒト脳オルガノイドを用いた脳組織再生技術の確立(19bm0704039h0001)	松井 健	脳神経内科学	19,500,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
急性大動脈解離発症前造影CT画像の解析(19ek0210115s1302)	添田 恒有	循環器内科学	300,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
肝硬変患者に対するDAA治療とADAMTS13/VWF動態の検討(19fk0210058s1401)	吉治 仁志	消化器内科学	1,170,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
aHUSの蛋白質学的診断法の樹立(19ek0109254s0203)	松本 雅則	輸血部	650,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
マルチオミクス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現(19km0405209s0802)	斎藤 能彦	循環器内科学	2,600,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
子宮内膜症の癌化機序の解明と早期発見法の開発(19ek0210017s0402)	小林 浩	産婦人科学	2,000,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
DNA損傷応答・核形態の機械学習による心不全の予後・治療応答予測モデルの構築(19ek0210118s0101)	尾上 健児	循環器内科学	1,300,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
認知機能リハにおけるメタ認知や内発的動機付けに焦点を絞ったグループセッションの開発およびマニュアル作成と普及(19dk0307074s0103)	松田 康裕	精神医学	500,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
機能獲得変異の病態機能解析(19ek0109210s0403)	野上 恵嗣	小児科学	1,300,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
腎機能不良・腎透析症例に対する抗HCV療法(19fk0210023s2103)	鶴屋 和彦	腎臓内科学	150,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
VWF多量体解析等の血栓止血学的解析(19ek0109256s1003)	松本 雅則	輸血部	702,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

小計 23

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
次世代血友病治療をめざしたタンパク質設計と多面的アウトカム評価解析 (19fk0410017s0302)	嶋 緑倫	小児科学	16,900,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
慢性期に進行する不安定プラークの同定 (19ek0210121s0201)	添田 恒有	循環器内科学	1,040,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
1型糖尿病におけるフラッシュグルコースモニタリングが低血糖も含む血糖コントロールとQOL改善に及ぼす効果の研究 (19ek0210104s0702)	笠原 正登	臨床研究センター	551,200	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録研究 (19ek0109367s0902)	斎藤 能彦	循環器内科学	260,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
心不全の発症・重症化の高精度予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発 (19ek0210080s0403)	川上 利香	循環器内科学	130,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
自然抗凝固因子異常症とその効果的モニタリング法に関する研究	嶋 緑倫	小児科学	450,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ゲノム分子病理解析による難治性心筋症における精密医療の実現 (19ek0109406s0201)	尾上 健児	循環器内科学	650,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
慢性めまいに対する感覚代行の有用性をTPADを用いて検討	北原 紬	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	427,700	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
AVWS患者におけるVWF、ADAMTS13の解析 (19ek0109370s0502)	松本 雅則	輸血部	650,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
生検材料における腫瘍量判定のできるAI開発および供与データのパブリッククラウドへの移行検証	大林 千穂	病理診断学	2,500,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究 (19lk1010035h0001)	平井 都始子	総合画像診断センター	1,040,000	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
SARS-CoV2感染無症状・軽症患者におけるウイルス量低減効果の検討を目的としたファビピラビルの多施設非盲検ランダム化臨床試験に関する研究およびファビピラビルを投与された中等症・重症患者における臨床経過の検討を目的とした多施設観察研究 (19fk0108150h0001)	笠原 敬	感染症センター	0	委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
皮質脳波計測とrBCIの検証	田村 健太郎	脳神経外科学	2,535,000	委 科学技術振興機構
CT検査時に医師の被ばくをなくし、患者体形に合わせた正確な検体採取とその場で細胞診断	西尾福 英之	放射線医学	4,156,880	補 経済産業省
緑内障が生体リズムに及ぼす影響-前向きコホート研究ベースライン横断解析	吉川 匡宣	眼科学	200,000	補 公益財団法人大阪コミュニティ財団
緑内障が生体リズムへ与える影響の解明	吉川 匡宣	眼科学	2,000,000	補 一般財団法人藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会
尿路上皮癌に対する抗癌薬物治療に伴う心筋・骨格筋障害および代謝障害の機序解明	三宅 牧人	泌尿器科	500,000	補 一般社団法人日本泌尿器科学会
末梢血マクロファージとヒトiPS細胞由来神経細胞を用いた精神疾患病態解析	鳥塚 通弘	精神医学	2,000,000	補 公益財団法人武田科学振興財団
循環器疾患における喫煙習慣と炎症の病態解明:臨床および疫学による多面的研究	斎藤 能彦	循環器内科学	500,000	補 公益財団法人喫煙科学研究財団
心臓リモデリングに対する心臓局所のネプリライシンの役割についての検討	中川 仁	循環器内科学	600,000	補 公益財団法人日本応用酵素協会
非虚血性拡張型心筋症患者の左室逆リモデリング予測因子の検討	中野 知哉	循環器内科学	500,000	補 公益財団法人大阪難病研究財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
レーザー接合によるPEEK製脊椎インプラントの骨癒合性改良研究	古川 彰	整形外科科学	3,000,000	補	公益財団法人天田財団
注意欠如多動症と自閉スペクトラム症併存の神経基盤の解明と治療効果予測を目指して	山室 和彦	精神医学	1,000,000	補	公益財団法人かなえ医薬振興財団
Danon病における心筋症とオートファジー機能異常の機序解明	杉江 和馬	脳神経内科学	1,000,000	補	公益財団法人先進医薬研究振興財団
死後脳と神経培養の融合解析によるミトコンドリアを標的とした統合失調症の治療法創発	紀本 創兵	精神医学	1,000,000	補	公益財団法人研究振興財団
リゾリン脂質経路を介した絨毛細胞機能への影響及び妊娠高血圧腎症の病理機序の解明	市河 麻祐子	産婦人科学	1,500,000	補	公益財団法人小林財団
低線量率密封小線源療法を受ける前立腺癌症例に対する経口5-アミノレブリン酸の有害事象予防効果	三宅 牧人	泌尿器科学	500,000	補	公益財団法人前立腺研究財団
発達障害患児の唾液中ストレスバイオマーカーによる不登校・ひきこもりへの発展の予測因子の検討	山室 和彦	精神医学	450,000	補	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
				小計	7

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入す 計 188

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Ogawa T, Inoue T, Kasahara K, et al.	感染症センター	Impact of vaccination on measles, mumps, and rubella antibody titers in Japanese healthcare workers: An observational study.	PLoS One. 2020 Mar; 15(3): e0230329 (オンライン)	Original Article
2	Miyagawa F, Nakamura Nishimura Y, Kanatani Y, et al.	皮膚科	Correlation Between Expression of CD134, a Human Herpesvirus 6 Cellular Receptor, on CD4+ T cells and Th2-type Immune Responses in Drug-induced Hypersensitivity Syndrome/Drug Reaction with Eosinophilia and Systemic Symptoms.	Acta Derm Venereol. 2020 Mar; 100(6): adv00102 (オンライン)	Original Article
3	Inoue K, Suenaga N, Oizumi N, et al.	整形外科	Humeral bone resorption after reverse shoulder arthroplasty using uncemented stem.	JSES Int. 2020 Mar; 4(1): 138-143	Original Article
4	Shimizu T, Miyake M, Hori S, et al.	泌尿器科	Clinical Significance of Tumor Size, Pathological Invasion Sites Including Urinary Collecting System and Clinically Detected Renal Vein Thrombus as Predictors for Recurrence in pT3a Localized Renal Cell Carcinoma.	Diagnostics (Basel). 2020 Mar; 10(3): 154 (オンライン)	Original Article
5	Mabuchi S, Matsumoto Y, Matsubara S	産婦人科	A New Silicon Sling Device for Traction During Robotic Gynecologic Surgery.	JSLs. 2020 Jan; 24(1): e2019.00063 (オンライン)	Original Article
6	Migita K, Matsumoto S, Wakatsuki K, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	RNF126 as a Marker of Prognosis and Proliferation of Gastric Cancer.	Anticancer Res. 2020 Mar; 40(3): 1367-1374	Original Article
7	Yasukawa M, Sawabata N, Kawaguchi T, et al.	心臓血管外科 呼吸器外科	Wedge Resection of Tumor Before Lobectomy for Lung Cancer Could Be a No-touch Isolation Technique.	In Vivo. 2020 Mar; 34(2): 779-785	Original Article
8	Hirose T, Sawabata N, Abe T, et al.	心臓血管外科 呼吸器外科	Protective Effects of Cold Ringer's Solution Perfusion in Abdominal Aortic Surgery Requiring Renal Artery Clamp.	In Vivo. 2020 Mar; 34(2): 739-744	Original Article
9	Ichihashi S, Takahara M, Fujimura N, et al.	放射線・核医学 科	Multicentre randomised controlled trial to evaluate the efficacy of pre-emptive inferior mesenteric artery embolisation during endovascular aortic aneurysm repair on aneurysm sac change: protocol of Clarify IMA study.	BMJ Open. 2020 Feb; 10(2): e031758 (オンライン)	Original Article
10	Nishikawa T, Fujii T, Tatsumi S, et al.	病理診断科	Molecular Analysis of Liquid-Based Cytological Specimen Using Virtually Positive Sputum with Adenocarcinoma Cells.	Diagnostics (Basel). 2020 Feb; 10(2): 84 (オンライン)	Original Article
11	Sato M, Ida M, Naito Y, et al.	麻酔科	Perianesthetic death: a 10-year retrospective observational study in a Japanese university hospital.	JA Clin Rep. 2020 Feb; 6(1): 8 (オンライン)	Original Article
12	Nakamoto T, Hokuto D, Nomi T, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Characteristics of Five-year Survivors After Liver Resection for Colorectal Liver Metastases in Modern Chemotherapy.	Anticancer Res. 2020 Feb; 40(2): 1107-1116	Original Article
13	Maeoka R, Nakagawa I, Ohnishi H, et al.	脳神経外科	A thread of hope for successful revascularization for acute embolic basilar artery occlusion due to miserable vertebral artery stump syndrome. A technical report.	J Clin Neurosci. 2020 Mar; 73: 299-303	Original Article
14	Zuo S, Sho M, Sawai T, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Potential role of the PD-L1 expression and tumor-infiltrating lymphocytes on neuroblastoma.	Pediatr Surg Int. 2020 Feb; 36(2): 137-143	Original Article

小計14件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
15	Ito T, Inui H, Miyasaka T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Endolymphatic volume in patients with meniere's disease and healthy controls: Three-dimensional analysis with magnetic resonance imaging.	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2019 Dec; 4(6): 653-658	Original Article
16	Murashima M, Nishimoto M, Kokubu M, et al.	腎臓内科	Inflammation as a predictor of acute kidney injury and mediator of higher mortality after acute kidney injury in non-cardiac surgery.	Sci Rep. 2019 Dec; 9(1): 20260(オンライン)	Original Article
17	Miyake M, Marugami N, Fujiwara Y, et al.	泌尿器科	Down-Grading of Ipsilateral Hydronephrosis by Neoadjuvant Chemotherapy Correlates with Favorable Oncological Outcomes in Patients Undergoing Radical Nephroureterectomy for Ureteral Carcinoma.	Diagnostics (Basel). 2019 Dec; 10(1): 10(オンライン)	Original Article
18	Ishihara S, Kawakami R, Nogi M, et al.	循環器内科	Incidence and Clinical Significance of 30-Day and 90-Day Rehospitalization for Heart Failure Among Patients With Acute Decompensated Heart Failure in Japan - From the NARA-HF Study.	Circ J. 2020 Jan; 84(2): 194-202	Original Article
19	Yokoyama S, Fukuba R, Mitani K, et al.	先天性心疾患センター	Preoperative simulation for complex transposition of great arteries using a three-dimensional model.	Cardiol Young. 2020 Feb; 30(2): 278-280	Original Article
20	Iwakoshi S, Dake MD, Irie Y, et al.	放射線・核医学科	Management of Renal Arteries in Conjunction with Thoracic Endovascular Aortic Repair for Complicated Stanford Type B Aortic Dissection: The Japanese Multicenter Study (J-Predictive Study).	Radiology. 2020 Feb; 294(2): 455-463	Original Article
21	Yasukawa M, Sawabata N, Kawaguchi T, et al.	心臓血管外科 呼吸器外科	Effectiveness of Intraoperative Pulmonary Wedge Resection of Tumor Site Before Lobectomy for Early Lung Adenocarcinoma.	Anticancer Res. 2019 Dec; 39(12): 6829-6834	Original Article
22	Matsubara S, Kawaguchi R, Akinishi M, et al.	産婦人科	Subtype I (intrinsic) adenomyosis is an independent risk factor for dienogest-related serious unpredictable bleeding in patients with symptomatic adenomyosis.	Sci Rep. 2019 Nov; 9(1): 17654(オンライン)	Original Article
23	Ishii H, Onishi Y, Oura T, et al.	糖尿病・内分泌内科	Once-Weekly Dulaglutide with Insulin Therapy for Type 2 Diabetes: Efficacy and Safety Results from a Phase 4, Randomized, Placebo-Controlled Study.	Diabetes Ther. 2020 Jan; 11(1): 133-145	Original Article
24	Nakai Y, Tanaka N, Asakawa I, et al.	泌尿器科	Analysis of quality of life after randomized controlled trial of alpha-1 adrenoceptor antagonist alone and in combination with cyclooxygenase-2 inhibitor in patients who underwent low-dose-rate brachytherapy for prostate cancer.	J Contemp Brachytherapy. 2019 Oct; 11(5): 409-416	Original Article
25	Nakajima Y, Nogami K, Yada K, et al.	小児科	Evaluation of clinical severity in patients with type 2N von Willebrand disease using microchip-based flow-chamber system.	Int J Hematol. 2020 Mar; 111(3): 369-377	Review
26	Kasahara M, Kuwabara Y, Moriyama T, et al.	臨床研究センター	Intensive uric acid-lowering therapy in CKD patients: the protocol for a randomized controlled trial.	Clin Exp Nephrol. 2020 Mar; 24(3): 235-241	Original Article
27	Ogawa Y, Nakano R, Kasahara K, et al.	感染症センター	Comparison of the inoculum size effects of antibiotics on IMP-6 β -lactamase-producing Enterobacteriaceae co-harboring plasmid-mediated quinolone resistance genes.	PLoS One. 2019 Nov; 14(11): e0225210(オンライン)	Original Article
28	Kattipatanapong T, Nishiofuku H, Tanaka T, et al.	放射線・核医学科	Improved Local Tumor Control and Survival Rates by Obtaining a 3D-Safety Margin in Superselective Transarterial Chemoembolization for Small Hepatocellular Carcinoma.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2020 Mar; 43(3): 423-433	Original Article
29	Murakami T, Nakagawa I, Park HS, et al.	脳神経外科	Extensive postoperative subdural fluid volume affects the onset of chronic subdural hematoma after unruptured aneurysmal clipping surgery.	Clin Neurol Neurosurg. 2019 Dec; 187: 105533(オ	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
30	Nogi M, Okura H, Kataoka T, et al.	循環器内科	Predictors and prognostic impact of secondary mitral regurgitation in myocardial infarction with preserved ejection fraction.	J Echocardiogr. 2020 Mar; 18(1): 67-72	Original Article
31	Omokawa S, Ono H, Suzuki D, et al.	整形外科	Dorsal Intercarpal Ligament Preserving Arthrotomy and Capsulodesis for Scapholunate Dissociation.	Tech Hand Up Extrem Surg. 2020 Mar; 24(1): 43-46	Original Article
32	Hayami N, Omokawa S, Iida A, et al.	整形外科	Effect of soft tissue injury and ulnar angulation on radial head instability in a Bado type I Monteggia fracture model.	Medicine (Baltimore). 2019 Nov; 98(44): e17728(オンライン)	Original Article
33	Nakai Y, Tanaka N, Asakawa I, et al.	泌尿器科	Prostate-specific antigen bounce after 125I-brachytherapy for prostate cancer is a favorable prognosticator in patients who are biochemical recurrence-free at 4 years and correlates with testosterone.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Jan; 50(1): 58-65	Original Article
34	Takaya H, Namisaki T, Kitade M, et al.	消化器・代謝内科	Acylcarnitine: Useful biomarker for early diagnosis of hepatocellular carcinoma in non-steatohepatitis patients.	World J Gastrointest Oncol. 2019 Oct; 11(10): 887-897	Original Article
35	Tamura Y, Sawabata N, Susaki Y, et al.	心臓血管外科 呼吸器外科	Effect of Cardiac Expansion on Postsurgical Pulmonary Resection Recovery.	In Vivo. 2019 Nov; 33(6): 1977-1984	Original Article
36	Takaya H, Namisaki T, Kitade M, et al.	消化器・代謝内科	VWF/ADAMTS13 ratio as a potential biomarker for early detection of hepatocellular carcinoma.	BMC Gastroenterol. 2019 Oct; 19(1): 167(オンライン)	Original Article
37	Iwakoshi S, Hirai T, Kichikawa K	放射線・核医学科	Updates on Ultrasonography Imaging in Abdominal Aortic Aneurysm.	Ann Vasc Dis. 2019 Sep; 12(3): 319-322	Review
38	Kawaguchi M, Iida H, Tanaka S, et al.	麻酔科	A practical guide for anesthetic management during intraoperative motor evoked potential monitoring.	J Anesth. 2020 Feb; 34(1): 5-28	Review
39	Tagawa M, Nishimoto M, Kokubu M, et al.	腎臓内科	Acute kidney injury as an independent predictor of infection and malignancy: the NARA-AKI cohort study.	J Nephrol. 2019 Dec; 32(6): 967-975	Original Article
40	Tai Y, Saeki K, Yamagami Y, et al.	総合診療科	Association between timing of hot water bathing before bedtime and night-/sleep-time blood pressure and dipping in the elderly: a longitudinal analysis for repeated measurements in home settings.	Chronobiol Int. 2019 Dec; 36(12): 1714-1722	Original Article
41	Tanaka M, Shigematsu H, Kawaguchi M, et al.	整形外科	Muscle-evoked Potentials After Electrical Stimulation to the Brain in Patients Undergoing Spinal Surgery are Less Affected by Anesthetic Fade With Constant-voltage Stimulation Than With Constant-current Stimulation.	Spine (Phila Pa 1976). 2019 Nov; 44(21): 1492-1498	Original Article
42	Kitano T	小児科	Stopping the HPV vaccine crisis in Japan: Quantifying the benefits and risks of HPV vaccination in quality-adjusted life-years for appropriate decision-making.	J Infect Chemother. 2020 Mar; 26(3): 225-230	Original Article
43	Ishihara T, Nogami K, Ochi S, et al.	小児科	Disordered hemostasis associated with severely depressed fibrinolysis demonstrated using a simultaneous thrombin and plasmin generation assay during L-asparaginase induction therapy in pediatric acute lymphoblastic leukemia.	Pediatr Blood Cancer. 2020 Jan; 67(1): e28016(オンライン)	Original Article
44	Kataoka H, Saeki K, Yamagami Y, et al.	脳神経内科	Quantitative associations between objective sleep measures and early-morning mobility in Parkinson's disease: cross-sectional analysis of the PHASE study.	Sleep. 2020 Jan; 43(1): zsz203(オンライン)	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
45	Nakade H, Migita K, Matsumoto S, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Overexpression of Cullin4A correlates with a poor prognosis and tumor progression in esophageal squamous cell carcinoma.	Int J Clin Oncol. 2020 Mar; 25(3): 446-455	Original Article
46	Matsuoka K, Morimoto T, Matsuda Y, et al.	精神科	Computer-assisted cognitive remediation therapy for patients with schizophrenia induces microstructural changes in cerebellar regions involved in cognitive functions.	Psychiatry Res Neuroimaging. 2019 Oct; 292: 41-46	Original Article
47	Tsukamoto S, Mavrogenis AF, Tanzi P, et al.	整形外科	Curettage as first surgery for bone giant cell tumor : adequate surgery is more important than oncology training or surgical management by high volume specialized teams.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2020 Jan; 30(1): 3-9	Original Article
48	Yoshikawa T, Nomi T, Sakai K, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Ischaemia-reperfusion injury with Pringle's maneuver induces unusually large von Willebrand factor multimers after hepatectomy.	Thromb Res. 2019 Nov; 183: 20-27	Original Article
49	Kataoka H, Sugie K	脳神経内科	Risk for later rapid eye movement sleep behavior disorder in Parkinson's disease: a 6-year prospective study.	Int J Neurosci. 2020 Mar; 130(3): 237-242	Original Article
50	Shima M, Nogami K, Nagami S, et al.	小児科	A multicentre, open-label study of emicizumab given every 2 or 4 weeks in children with severe haemophilia A without inhibitors.	Haemophilia. 2019 Nov; 25(6): 979-987	Original Article
51	Nishimoto M, Tagawa M, Matsui M, et al.	腎臓内科	A Prediction Model with Lifestyle in Addition to Previously Known Risk Factors Improves Its Predictive Ability for Cardiovascular Death.	Sci Rep. 2019 Sep; 9(1): 12953(オンライン)	Original Article
52	Nakanishi K, Namisaki T, Mashitani T, et al.	消化器・代謝内科	Late-Evening Snack with Branched-Chain Amino Acid-Enriched Nutrients Does Not Always Inhibit Overt Diabetes in Patients with Cirrhosis: A Pilot Study.	Nutrients. 2019 Sep; 11(9): 2140(オンライン)	Original Article
53	Kanaoka K, Okayama S, Nakai M, et al.	心臓血管外科	Number of Cardiologists per Cardiovascular Beds and In-Hospital Mortality for Acute Heart Failure: A Nationwide Study in Japan.	J Am Heart Assoc. 2019 Sep; 8(18): e012282(オンライン)	Original Article
54	Miyake M, Maesaka F, Marugami N, et al.	泌尿器科	A Potential Application of Dynamic Contrast-Enhanced Magnetic Resonance Imaging Combined with Photodynamic Diagnosis for the Detection of Bladder Carcinoma in Situ: Toward the Future 'MRI-PDD Fusion TURBT'.	Diagnostics (Basel). 2019 Sep; 9(3): 112(オンライン)	Original Article
55	Yamashita K, Abe T, Hayata Y, et al.	心臓血管外科 呼吸器外科	Prognostic Value of Preoperative Pulmonary Arterial Capacitance for Patients Undergoing Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Valve Stenosis.	Circ J. 2019 Oct; 83(11): 2222-2228	Original Article
56	Morimoto Y, Shigematsu H, Iwata E, et al.	整形外科	Evaluating Cervical Sagittal Alignment in Cervical Myelopathy: Are Sitting Cervical Radiographs and Standing Whole-Spine Radiographs Equally Useful?	Global Spine J. 2019 Sep; 9(6): 591-597	Original Article
57	Tanaka T, Nishiofuku H, Masada T, et al.	放射線・核医学科	Drug Release Property of Lipiodol Emulsion Formed by Glass Membrane Emulsification Device for Transarterial Chemoembolization.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2020 Jan; 43(1): 135-139	Original Article
58	Morizawa Y, Aoki K, Iemura Y, et al.	泌尿器科	Urinary nerve growth factor can predict therapeutic efficacy in children with monosymptomatic nocturnal enuresis.	Neurourol Urodyn. 2019 Nov; 38(8): 2311-2317	Original Article
59	Niino E, Kawahara N, Yamada Y, et al.	産婦人科	Immunohistochemical expression of CD44v9 and 8-OHdG in ovarian endometrioma and the benign endometriotic lesions adjacent to clear cell carcinoma.	J Obstet Gynaecol Res. 2019 Nov; 45(11): 2260-2266	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
60	Moriya K, Namisaki T, Sato S, et al.	消化器・代謝内科	Bi-monthly hepatic arterial infusion chemotherapy as a novel strategy for advanced hepatocellular carcinoma in decompensated cirrhotic patients.	Clin Mol Hepatol. 2019 Dec; 25(4): 381-389	Original Article
61	Hori S, Morizawa Y, Gotoh D, et al.	泌尿器科	Evaluation of Preoperative Abdominal Adipose Tissue-, Inflammation-, Muscle Mass-, and Nutritional Status-based Prognostic Markers to Assess Renal Dysfunction in Living Kidney Donors.	Transplant Proc. 2019 Jul; 51(6): 1706-1716	Original Article
62	Kataoka H, Nishimori Y, Kiriyaama T, et al.	脳神経内科	Increased Signal in the Superior Cerebellar Peduncle of Patients with Progressive Supranuclear Palsy.	J Mov Disord. 2019 Sep; 12(3): 166-171	Original Article
63	Sawada Y, Kawaratani H, Kubo T, et al.	消化器・代謝内科	Effect of furosemide on muscle cramps in patients with liver cirrhosis.	J Gastroenterol Hepatol. 2020 Jan; 35(1): 76-81	Original Article
64	Miyake M, Tanaka N, Asakawa I, et al.	泌尿器科	The impact of the definition of biochemical recurrence following salvage radiotherapy on outcomes and prognostication in patients with recurrent prostate cancer after radical prostatectomy: a comparative study of three	Prostate Int. 2019 Jun; 7(2): 47-53	Original Article
65	Kitano T, Nishikawa H, Suzuki R, et al.	小児科	The impact analysis of a multiplex PCR respiratory panel for hospitalized pediatric respiratory infections in Japan.	J Infect Chemother. 2020 Jan; 26(1): 82-85	Review
66	Tanaka T, Sato T, Nishiofuku H, et al.	放射線・核医学科	Selective TACE with irinotecan-loaded 40 μ m microspheres and FOLFIRI for colorectal liver metastases: phase I dose escalation pharmacokinetic study.	BMC Cancer. 2019 Aug; 19(1): 758(オンライン)	Original Article
67	Kitano T, Onishi T, Takeyama M, et al.	小児科	Questionnaire survey on maternal pertussis vaccination for pregnant women and mothers in Nara prefecture, Japan.	Hum Vaccin Immunother. 2020 Feb; 16(2): 335-339	Original Article
68	Yoshikawa T, Obayashi K, Miyata K, et al.	眼科	Cataracts and Subclinical Carotid Atherosclerosis in Older Adults - A Cross-Sectional Study of the HEIJO-KYO Cohort.	Circ J. 2019 Sep; 83(10): 2044-2048	Original Article
69	Yasukawa M, Taiji R, Marugami N, et al.	心臓血管外科 呼吸器外科	Preoperative Detection of Pleural Adhesions Using Ultrasonography for Ipsilateral Secondary Thoracic Surgery Patients.	Anticancer Res. 2019 Aug; 39(8): 4249-4252	Original Article
70	Cheng HM, Tanaka T, Nishiofuku H, et al.	放射線・核医学科	Safety and Prognosis of Transarterial Chemoembolization for Octogenarians with Hepatocellular Carcinoma.	Cardiovasc Intervent Radiol. 2019 Oct; 42(10): 1413-1419	Original Article
71	Nogami K, Matsumoto T, Sasai K, et al.	小児科	A novel simultaneous clot-fibrinolysis waveform analysis for assessing fibrin formation and clot lysis in haemorrhagic disorders.	Br J Haematol. 2019 Nov; 187(4): 518-529	Original Article
72	Yamada Y, Kawaguchi R, Iwai K, et al.	産婦人科	Preoperative plasma D-dimer level is a useful prognostic marker in ovarian cancer.	J Obstet Gynaecol. 2020 Jan; 40(1): 102-106	Original Article
73	Ueda T, Kawakami R, Nakada Y, et al.	循環器内科	Differences in blood pressure riser pattern in patients with acute heart failure with reduced mid-range and preserved ejection fraction.	ESC Heart Fail. 2019 Oct; 6(5): 1057-1067	Original Article
74	Tanaka Y, Aiyer A, Iwata E, et al.	整形外科	What Is the Optimal Number of Samples for Culture in Patients Undergoing Surgery for Foot and Ankle Infections?	Foot Ankle Int. 2019 Jul; 40(1_suppl): 32S-33S	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
75	Sasaki Y, Hokuto D, Inoue T, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Significance of Herpesvirus Entry Mediator Expression in Human Colorectal Liver Metastasis.	Ann Surg Oncol. 2019 Nov; 26(12): 3982-3989	Original Article
76	Fukui S, Miyake M, Iida K, et al.	泌尿器科	The Preoperative Predictive Factors for Pathological T3a Upstaging of Clinical T1 Renal Cell Carcinoma.	Diagnostics (Basel). 2019 Jul; 9(3): 76(オンライン)	Original Article
77	Kamitani N, Migita K, Matsumoto S, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Association of skeletal muscle loss with the long-term outcomes of esophageal cancer patients treated with neoadjuvant chemotherapy.	Surg Today. 2019 Dec; 49(12): 1022-1028	Original Article
78	Yada K, Nogami K	小児科	Spotlight on emicizumab in the management of hemophilia A: patient selection and special considerations.	J Blood Med. 2019 Jul; 10: 171-181	Original Article
79	Matsuda Y, Makinodan M, Morimoto T, et al.	精神科	Neural changes following cognitive remediation therapy for schizophrenia.	Psychiatry Clin Neurosci. 2019 Nov; 73(11): 676-684	Review
80	Ito T, Inui H, Miyasaka T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Relationship between changes in hearing function and volumes of endolymphatic hydrops after endolymphatic sac drainage.	Acta Otolaryngol. 2019 Sep; 139(9): 739-746	Original Article
81	Kitano K, Kitahara T, Ito T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Results in caloric test, video head impulse test and inner ear MRI in patients with Ménière's disease.	Auris Nasus Larynx. 2020 Feb; 47(1): 71-78	Original Article
82	Motoyama Y, Takamura Y, Park HS, et al.	脳神経外科	Appropriate Flow Reduction for Unilateral Ruptured Vertebral Artery Dissection by Proximal Clipping to Prevent Rebleeding and Medullary Infarction.	World Neurosurg. 2019 Oct; 130: e627-e633(オンライン)	Original Article
83	Ichihashi S, Shibata T, Fujimura N, et al.	放射線・核医学科	Vessel Calcification as a Risk Factor for In-Stent Restenosis in Complex Femoropopliteal Lesions After Zilver PTX Paclitaxel-Coated Stent Placement.	J Endovasc Ther. 2019 Oct; 26(5): 613-620	Original Article
84	Hori S, Ichikawa K, Morizawa Y, et al.	泌尿器科	Clinical Significance of Postoperative Nutritional Status as a Prognostic Factor in Kidney Transplant Recipients.	Transplant Proc. 2019 Jul; 51(6): 1763-1772	Original Article
85	Yada K, Nogami K, Ogiwara K, et al.	小児科	Global coagulation function assessed by rotational thromboelastometry predicts coagulation-steady state in individual hemophilia A patients receiving emicizumab prophylaxis.	Int J Hematol. 2019 Oct; 110(4): 419-430	Original Article
86	Horinaka A, Kitahara T, Shiozaki T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Head-Up Sleep May Cure Patients With Intractable Benign Paroxysmal Positional Vertigo: A six-Month Randomized Trial.	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2019 Jun; 4(3): 353-	Original Article
87	Yoshikawa T, Obayashi K, Miyata K, et al.	眼科	Increased Nighttime Blood Pressure in Patients with Glaucoma: Cross-sectional Analysis of the LIGHT Study.	Ophthalmology. 2019 Oct; 126(10): 1366-1371	Original Article
88	Takeshima Y, Matsuda R, Nishimura F, et al.	脳神経外科	Sequential Enlargement of Posterior Fossa After Duraplasty for Chiari Malformation Type 1.	World Neurosurg X. 2019 Apr; 2: 100004(オンライン)	Original Article
89	Miyake M, Hori S, Ohnishi S, et al.	泌尿器科	Clinical Impact of the Increase in Immunosuppressive Cell-Related Gene Expression in Urine Sediment during Intravesical Bacillus Calmette-Guérin.	Diseases. 2019 Jun; 7(2): 44(オンライン)	Original Article
90	Ishii H, Suzaki Y, Miyata Y, et al.	糖尿病・内分泌内科	Randomized Multicenter Evaluation of Quality of Life and Treatment Satisfaction in Type 2 Diabetes Patients Receiving Once-Weekly Trelagliptin Versus a Daily Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor.	Diabetes Ther. 2019 Aug; 10(4): 1369-1380	Original Article
91	Gurung P, Motoyama Y, Takatani T, et al.	脳神経外科	Transient Augmentation of Intraoperative Motor Evoked Potentials During Middle Cerebral Artery Aneurysm Surgery.	World Neurosurg. 2019 Oct; 130: e127-e132(オンライン)	Original Article

小計17件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
92	Kitamura T, Kido A, Ishida Y, et al.	整形外科	Muscle Activity Pattern with A Shifted Center of Pressure during the Squat Exercise.	J Sports Sci Med. 2019 Jun; 18(2): 248-252	Original Article
93	Ida M, Onodera H, Yamauchi M, et al.	麻酔科	Preoperative sleep disruption and postoperative functional disability in lung surgery patients: a prospective observational study.	J Anesth. 2019 Aug; 33(4): 501-508	Original Article
94	Nakagawa K, Sho M, Akahori T, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Significance of the inflammation-based prognostic score in recurrent pancreatic cancer.	Pancreatol. 2019 Jul; 19(5): 722-728	Original Article
95	Ishii H, Kim HR, Crawford B	糖尿病・内分泌内科	The revalidation of the diabetes treatment-related quality-of-life (DTR-QOL) questionnaire in Japan.	Diabetol Int. 2019 Apr; 10(2): 93-101	Original Article
96	Takaya H, Namisaki T, Shimozato N, et al.	消化器・代謝内科	ADAMTS13 and von Willebrand factor are useful biomarkers for sorafenib treatment efficiency in patients with hepatocellular carcinoma.	World J Gastrointest Oncol. 2019 May; 11(5): 424-435	Original Article
97	Migita K, Matsumoto S, Wakatsuki K, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Postoperative Serum C-Reactive Protein Level Predicts Long-term Outcomes in Stage I Gastric Cancer.	J Surg Res. 2019 Oct; 242: 323-331	Original Article
98	Nomi T, Hirokawa F, Kaibori M, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Laparoscopic versus open liver resection for hepatocellular carcinoma in elderly patients: a multi-centre propensity score-based analysis.	Surg Endosc. 2020 Feb; 34(2): 658-666	Original Article
99	Mitoto A, Nishikawa T, Yoshida M, et al.	消化器・代謝内科	Diagnostic Efficacy of Liquid-Based Cytology in Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration for Pancreatic Mass Lesions During the Learning Curve: A Retrospective Study.	Pancreas. 2019 May; 48(5): 686-689	Original Article
100	Nakanishi A, Omokawa S, Kawamura K, et al.	整形外科	Tamai Zone 1 Fingertip Amputation: Reconstruction Using a Digital Artery Flap Compared With Microsurgical Replantation.	J Hand Surg Am. 2019 Aug; 44(8): 655-661	Original Article
101	Tanaka N, Yorozu A, Kikuchi T, et al.	泌尿器科	Genitourinary toxicity after permanent iodine-125 seed implantation: The nationwide Japanese prostate cancer outcome study of permanent iodine-125 seed implantation (J-POPS).	Brachytherapy. 2019 Jul; 18(4): 484-492	Original Article
102	Iwakoshi S, Nakai T, Ichihashi S, et al.	放射線・核医学科	Conformability and Efficacy of the Zenith Spiral Z Leg Compared with the Zenith Flex Leg in Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair.	Ann Vasc Surg. 2019 Aug; 59: 127-133	Original Article
103	Tanaka N, Nishimura K, Okajima E, et al.	泌尿器科	Docetaxel-based chemotherapy combined with dexamethasone 1 mg daily oral administration for castration-resistant prostate cancer: Long-term outcomes.	Int J Urol. 2019 Aug; 26(8): 797-803	Original Article
104	Tsujii N, Nogami K, Matsumoto M, et al.	小児科	Involvement of the ADAMTS13-VWF axis in acute Kawasaki disease and effects of intravenous immunoglobulin.	Thromb Res. 2019 Jul; 179: 1-10	Original Article
105	Nishiwada T, Kawaraguchi Y, Uemura K, et al.	麻酔科	Morphine inhibits cell viability and growth via suppression of vascular endothelial growth factor in human oral cancer HSC-3 cells.	J Anesth. 2019 Jun; 33(3): 408-415	Original Article
106	Yasukawa M, Taiji R, Marugami N, et al.	心臓血管外科 呼吸器外科	Ultrasonography for Detecting Adhesions: Aspirin Continuation for Lung Resection Patients.	In Vivo. 2019 May; 33(3): 973-978	Original Article
107	Fujinaga Y, Namisaki T, Moriya K, et al.	消化器・代謝内科	Identification of clinical risk factors for histological progression of primary biliary cholangitis.	Hepatol Res. 2019 Sep; 49(9): 1015-1025	Original Article

小計16件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
108	Kamon D, Okura H, Okamura A, et al.	循環器内科	Plasma Renin Activity Is an Independent Prognosticator in Patients With Myocardial Infarction.	Circ J. 2019 May; 83(6): 1324-1329	Original Article
109	Miyake M, Owari T, Tomizawa M, et al.	泌尿器科	Long-term Changes in Renal Function, Blood Electrolyte Levels, and Nutritional Indices after Radical Cystectomy and Ileal Conduit in Patients with Bladder Cancer.	Urol J. 2019 May; 16(2): 145-151	Original Article
110	Tsuruya K, Shimazaki R, Fukagawa M, et al.	腎臓内科	Efficacy and safety of evocalcet in Japanese peritoneal dialysis patients.	Clin Exp Nephrol. 2019 Jun; 23(6): 739-748	Original Article
111	Iida K, Miyake M, Onishi K, et al.	泌尿器科	Prognostic impact of tumor-infiltrating CD276/Foxp3-positive lymphocytes and associated circulating cytokines in patients undergoing radical nephrectomy for localized renal cell carcinoma.	Oncol Lett. 2019 Apr; 17(4): 4004-4010	Original Article
112	Kurokawa H, Taniguchi A, Morita S, et al.	整形外科	Total ankle arthroplasty incorporating a total talar prosthesis: a comparative study against the standard total ankle arthroplasty.	Bone Joint J. 2019 Apr; 101-B(4): 443-446	Original Article
113	Hayakawa M, Kato S, Matsui T, et al.	輸血部	Blood group antigen A on von Willebrand factor is more protective against ADAMTS13 cleavage than antigens B and H.	J Thromb Haemost. 2019 Jun; 17(6): 975-983	Original Article

小計6件/
合計113件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					
2					
3					

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の構成、責務、審査とその判定、審査書類の準備と手続き、事務局業務について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 目的、適用範囲、利益相反管理委員会、利益相反に関する相談室、自己申告書の提出、委員会における審査等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 3 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 3 回
・ 研修の主な内容 人を対象とする医学系研究及びヒトゲノム・遺伝子解析研究を実施するために必要な倫理課題について（被験者保護、データの質管理、計画書の遵守等）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科が総合的な臨床力を重視するとともにさまざまな専門医養成コースを準備しており、複数科連携プログラムも稼働している。このため各人がそれぞれのニーズに合わせてキャリアデザインを組むことが可能となっている。

内科各科の連携は密接で内科合同カンファランスを定期的を開催するとともに、総合内科専門医養成コースを設けている。

さらに、附属病院として、緩和ケアを含むがん薬物療法および放射線治療に関する知識・技術を修得した総合的ながん専門医を養成するためのプログラムを策定し、「がん薬物療法専門医」養成コースも設けている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	94人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
斎藤 能彦	循環器内科	教授	39年	
室 繁郎	呼吸器・アレルギー・血液内科	教授	31年	
吉治 仁志	消化器・内分泌代謝内科	教授	33年	
杉江 和馬	脳神経内科	教授	25年	
庄 雅之	消化器外科・小児外科・乳腺外科	教授	29年	
中瀬 裕之	脳神経外科	教授	37年	
谷口 繁樹	心臓血管外科	教授	38年	
田中 康仁	整形外科	教授	36年	リウマチ科も兼ねる
小林 浩	産婦人科	教授	40年	
緒方 奈保子	眼科	教授	37年	
嶋 緑倫	小児科	教授	41年	
岸本 年史	精神科	教授	39年	
浅田 秀夫	皮膚科	教授	36年	
藤本 清秀	泌尿器科	教授	33年	
北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	28年	内分泌外科も兼ねる
吉川 公彦	放射線科 (画像診断・IVR)	教授	40年	
長谷川 正俊	放射線治療・核医学科	教授	38年	
川口 昌彦	麻酔科	教授	32年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
西尾 健治	総合診療科	教授	38年	
桐田 忠昭	歯科口腔外科	教授	37年	
福島 英賢	救急科	教授	24年	
笠原 敬	感染制御内科	准教授	21年	
桑原 理充	形成外科	病院教授	24年	
堀川 博誠	リハビリテーション科	病院教授	37年	
大林 千穂	病理診断科	教授	37年	
澤端 章好	呼吸器外科	准教授	31年	
鶴屋 和彦	腎臓内科	教授	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 吉川 公彦
管理担当者氏名	病院経営部次長（経営企画課長）藤田 和成、医療サービス課長 鶴谷 幸彦、 病院管理課長 畑 浩之

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課	個々の患者諸記録は電子カルテで一括管理 診療録の院外への持ち出しについては診療録取扱内規により禁止されている。
		各科診療日誌	医療情報部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医療情報部	
		看護記録	医療情報部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	医療情報部	
		紹介状	医療情報部	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	各種データ（又は帳冊）
		高度の医療の提供の実績	各診療科	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科	
		高度の医療の研修の実績	各診療科	
		閲覧実績	実績なし	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療情報部 地域医療連携室	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部 経営企画課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進室	各種データ（又は帳冊）
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進室	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室	各種データ（又は帳冊）
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療技術センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター	

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室	各種データ（又は帳冊）
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課	
		監査委員会の設置状況	病院管理課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療相談室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室	
		職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	(2) 現状
閲覧責任者氏名	病院長 吉川 公彦	
閲覧担当者氏名	病院経営部次長（経営企画課長）藤田 和成、医療サービス課長 鶴谷 幸彦、病院管理課長 畑 浩之	
閲覧の求めに応じる場所	各課 執務室	
閲覧の手続の概要		
「公立大学法人奈良県立医科大学個人情報取扱規程」を準用した開示（閲覧）手続による。		
(診療録等個人情報を含む場合)		
1. 開示（閲覧）請求		
↓		
2. 法人内部での決裁		
↓		
3. 総合窓口（県 総務部総務課）への協議		
↓		
4. 決定		
↓		
5. 開示（閲覧）		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容：医療事故の予防・再発防止対策ならびに発生時の適切な対策など、本院における医療安全管理体制を確立し、適切かつ安全で質の高い医療サービスの提供を図ることを目的とした内容になっている。 ・ 患者に信頼される医療サービスの提供と医療の質的向上を求めていくことを安全管理に関する基本姿勢とし、医療安全管理体制の構築（医療安全管理委員会、医療安全推進室の設置等）、医療安全管理のための院内報告制度等の構築、医療事故発生時の対応方法の確立、職員に対する安全教育・研修の実施等について定めている。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： ・ 医療安全管理に関する重要案件の審議に関すること。 ・ 医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。 ・ 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。 ・ 医療事故調査委員会の審議結果を受けた再発防止に向けての検討に関すること。 ・ 管理委員会で立案された改善策の実施並びに実施状況の調査及び見直しに関すること。 ・ 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者との連携に関すること。 等を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回
・ 研修の主な内容：「患者と共に築く医療安全」、「医療機器安全管理研修Ⅰ」、「RST総論」、「医薬品安全管理研修Ⅰ」、「多職種で取り組む！～せん妄に対する実践的・効果的なアプローチ～」、「効果的なコミュニケーションのすすめ方」、「新規医療技術・高難度医療導入に関する医療安全管理研修」、「臨床倫理と医療安全」、「医療機器安全管理研修Ⅱ」、「医療情報に関する医療安全管理研修」、「医薬品安全管理研修Ⅱ」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①事故報告 ○リスクマネージャー会議で事故報告の実施推進を周知し、各部署へ伝達してもらう。また、研修案内一斉メールでお知らせとして周知するとともに、研修会開始前にスライドで周知。中途採用者対象には、DVDで周知。 ○インシデント・アクシデント報告を全例チェックし、疑義のあるものは室ミーティング、医療安全管理委員会で審議・対応している。死亡報告、オカレンス報告も全例チェックし、事故性の有無を確認し、事故が疑われるものはインシデント・アクシデント報告と同様の対応をしている。（死亡報告は、報告漏れの確認を死亡退院患者一覧との引き合わせで行い、報告がない事例については報告を促している） ○インシデント報告システムに「オカレンス報告」を作り、インシデント・アクシデントには至らなかったが、気になったことを報告してもらっている。 ○分析・対策検討会議でインシデント、アクシデントの原因分析と対策立案を行い、医療安全管理委員会、病院運営協議会で承認を得て実施し、検証を行っている。 ②その他 ○各部署宛に、事故報告の中で周知が必要と思われる内容を「医療安全ニュース」（医療安全推進室作成）として随時配付するほか、医療安全情報（医療機能評価機構）も随時配付している。 ○認定病院患者安全協議会主催の研修会等の案内を対象部署に案内している。 ○院内ラウンドを実施して、実態把握と改善指導を行っている。	

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○R S Tラウンドを実施して、人工呼吸器の安全確保と事故防止及び未然確認を行っている。○チームS T E P P S研修を開催し、チームトレーニングによるコミュニケーションや、リーダーシップなどのスキルをあげ、患者安全を高め事故防止につなげている。 |
|--|

(注) 前年度の実績を記入すること。

様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☒ 有 ・ 無
・ 指針の主な内容：①院内感染対策に関する基本的考え方、②感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項、③院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針、④感染症の発生状況の報告に関する基本方針、⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針、⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針、⑦その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針等、その他感染対策を推進するために必要な基本方針を記載している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容：病院長、感染症センター長、感染管理室長、看護部長、薬剤部長、中央臨床検査部長、病院経営部長、ICD、ICNなど職種横断的に構成しており、委員は21名。毎月1回開催している。また、耐性菌の検出状況や抗菌薬の使用状況、針刺し事故事例や医療関連感染事例や、従業員に対する研修の実施状況などを報告している。医療関連感染事例の対応や本指針、感染対策に関するマニュアル等の制定・改廃の承認についての審議および意思決定を行っている。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年14回
・ 研修の主な内容：職員に感染対策として周知・徹底したい知識や情報等をテーマとして、全職員対象に研修を実施している。令和元度は9種類の内容で28回集合研修を実施した。そのうち、抗菌薬の適正使用に関する内容は2回実施。研修会に参加することが困難な職員を対象にDVD貸出による研修を行った。また、DVD視聴が困難な職員にはカンファレンスルームでDVD上映研修を実施し、アンケート形式による受講報告書の提出を義務づけた。主に医師を対象としたE-learningも実施した。E-learningでは集合研修を撮影した動画を視聴できるようにしている。 所属長宛に未受講者一覧を配布し、年間2回以上受講するよう啓蒙を行っている。 またこれとは別に、新規採用および中途採用職員には入職時に研修会を開催し、参加できない職員にはDVD貸出による研修を実施することで当院における感染対策に関する基礎知識の定着と感染対策の推進を行っている。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における感染症発生状況の報告等の整備 (☒ 有 ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容：病院長を含む病院運営協議会のメンバーを中心とした感染防止委員会（ICC委員会）および医師、看護師、コメディカル、事務等の各所属から代表者を選出して構成するICT委員会をそれぞれ月1回開催し、院内における感染症の発生状況やその対策について報告し、周知徹底を行っている。 さらに、これらのメンバーを中心としたメーリングリストを作成し、「感染対策週報」として感染管理室長から毎週メールを配信することにより、当院における感染症発生状況を中心に、県内における感染症発症状況等の情報発信と情報共有を行っている。 他にもICTメンバーによる週2回の環境ラウンド（集中ラウンド・全病棟ラウンド）、抗菌薬ラウンド（毎日）、耐性菌ラウンド（耐性菌検出時）、ICTミーティング（毎日）、ASTミーティング（毎日）など様々な方策で感染対策および抗菌薬適正使用に係る、推進・充実に向けた取り組みを行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
・ 研修の主な内容： 医薬品安全管理 1：R1年7月24日・麻薬の取扱い及び管理について・電子カルテ更新に伴う注射薬払い出しの変更について 医薬品安全管理 2：R2年2月14日・新電子カルテ移行後の血糖管理における注意点について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (☒有・無) ・ 業務の主な内容： 医師、看護師のリスクマネージャーに対し、各所属での手順実施状況を確認し薬剤部へ報告 薬剤部についても、まとめて確認を実施	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟担当薬剤師から得られた情報や医療サービス課からの査定情報、厚生労働省およびPMDAからの通知や医薬品安全性情報などから情報を入手し、必要に応じて医薬品情報管理係よりDIニュース等で薬剤部から情報を発信する	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
③ 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： R1. 7. 24 医療機器の安全管理Ⅰ 放射線の安全管理とMRI検査 R2. 1. 16医療機器の安全管理Ⅱ 医療機器に関する安全な使用と管理 R2. 6. 25R S Tセミナー 安全な人工呼吸器管理を中心とした呼吸サポートチームの活動 適宜、病棟・部署単位での勉強会の実施 ・ 機器研修 4 0 件（内、新規機器研修 0 件）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （ ☒・無 ） ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺関連機器（補助循環装置）人工呼吸器、透析関連機器、除細動器（AED）、閉鎖式保育器、電気メス、麻酔器、高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、CTエックス線装置（医用X線CT装置）磁気共鳴画像診断装置（MRI装置）の定期点検の実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ☒・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全推進室とともに、PMDAや日本医療機能評価機構・医療機器センターからの回収情報、インシデント情報、業者からの報告情報を収集し、院内職員への注意喚起、情報共有を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 20 の 2 第 1 項第 1 号から第 13 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無								
・ 責任者の資格 (☒ 医師 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門：医療安全推進室より必要に応じ報告する。 医療安全管理委員会：副委員長として参加。 医薬品安全管理責任者：医薬品安全管理会議の審議内容を報告する。 医療機器安全管理責任者：改正医療法に基づき、特定機能病院における医療機器関連の保守点検の計画・実施の報告を行う。医療機器安全管理会議の審議内容の報告を行う。									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有 (4 名) ・ 無								
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報管理係にて、病棟薬剤師からの副作用等の情報を入手、医事データや電子カルテデータからは使用量や査定情報を入手、ヒヤリハット報告などの情報を取得し、必要に応じて医薬品情報管理係より DI ニュース等で薬剤部から情報を発信する。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 先進医療等審査委員会が申請を審議し、新規医療技術等評価委員会及び医の倫理審査委員会へ諮問し、答申を得、先進医療等審査委員会が適否を決定する。処方変更などの事例発生時には、病棟薬剤師より提案し対応し、必要に応じて医薬品情報管理係を通して医薬品安全管理責任者に報告する。 ・ 担当者の指名の有無 (☒ 有) ・ 無 ・ 担当者の所属・職種： <table><tr><td>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種)</td><td>(所属： ， 職種)</td></tr></table>		(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)
(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
(所属： ， 職種)	(所属： ， 職種)								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無								
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容									

説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
平成29年7月制定の「インフォームドコンセントマニュアル」で定めた方法により、説明・同意書が作成されているかの確認を、月1回開催している同意書等審議委員会において審議している。また、適切に実施されるよう医療従事者への指導等を実施した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有・無
-----------------------	---

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

【診療録の記載内容の確認】

各診療科別に、任意に抽出した患者の診療録の内容をチェックリストに基づき点検を行い、点検結果を診療科にフィードバックした。

【指導内容の主な内容】

- ・手術記録が日本語でなされていない。
- ・研修医の診療録記載に指導医の承認のないものがあった。
- ・インフォームドコンセントに関して、患者の同意の確認の有無の記載がないものがあった。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有・無
-----------------	---

- ・所属職員：専従（8）名、専任（0）名、兼任（3）名
- うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち臨床工学士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名
- うち事務：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（1）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- ・医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。
- ・医療事故及びインシデントに関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること。
- ・医療事故等の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。
- ・医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導に関すること。
- ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。
- ・医療事故等の改善策の実施状況の評価、再発防止に向けての検討に関すること。
- ・医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。
- ・患者等や職員からの医療・診察の安全に関する相談及び連絡調整に関すること。
- ・リスクマネージャーによる医療安全推進活動に関すること。
- ・肺血栓塞栓症予防体制の確立に向けた活動に関すること。
- ・呼吸サポートチームの活動の調整、記録物等の保管に関すること。
- ・医薬品安全管理に関すること。
- ・医療機器安全管理に関すること。

- ・その他医療安全対策の推進に関すること（Safety-Net の構築、チーム STEPPS の推進）
- ・診療内容のモニタリング（褥瘡発生率、肺血栓症予防対策実施率）
- ・医療安全の認識のモニタリング（「医療における安全文化に関する調査」）

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（１件）、及び許可件数（３件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：

先進医療等審査委員会から諮問があった場合、科学的妥当性、実現可能性について検討し、その提供の適否等に関する評価を答申する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（９件）、及び許可件数（１０件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：

先進医療等審査委員会から諮問があった場合、科学的妥当性、実現可能性について検討し、その提供の適否等に関する評価を答申する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：８００件（令和元年度）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったも

のとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年591件(令和元年度)

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

- ・医療安全管理に関する重要案件の審議に関すること。
- ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。
- ・医療安全管理委員会で立案された改善策の実施並びに実施状況の調査及び見直しに関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：北海道大学）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：宮崎大学）・無）
- ・技術的助言の実施状況：

高難度新規医療技術を導入する際のプロセスや未承認・保険適応外の医薬品等による治療を実施する際のプロセスを評価し審査するための部門として「高度新規医療評価部」を創設。また、同評価部に、諮問機関として「高難度新規医療技術評価委員会」及び「未承認新規医薬品等評価委員会」を置くとともに、医薬品安全管理責任者を配置することにより、審査体制の適正化を図った。（令和2年4月1日施行）

立入り：北海道大学（令和元年11月11日実施）

受入れ：宮崎大学（令和元年10月1日実施）

評価項目は、国立大学附属病院長会議常置委員会医療安全管理体制担当校である大阪大学が作成している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合相談窓口（医療相談室 相談係）、患者・家族支援室を設置済み

⑫ 職員研修の実施状況

医療法施行規則に従い、集合研修を実施している。インシデント・アクシデント報告の方法・その後の流れを含む本院医療安全の基礎、患者・家族との協働、DNAR、医療情報の安全な利用について、及び、本院の現状を基に改善策を提案する内容の研修を行っている。令和元年度の集合研修は11回開催した。また、令和元年度はeラーニングを導入し、718名が受講した。

令和元年度は前述の集合研修の内容の他に、チーム STEPPS 等（計6回 119名）に関する研修を行った。

未受講者対策として、本人宛受講促進通知を出すとともに、所属長・リスクマネージャーに促進

依頼通知を出している。（令和元年度 未受講者 21 名（0.9）％、2 回以上受講率 98.2％）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全管理責任者

- ・令和元年度特定機能病院管理者研修（令和元年 12 月 16 日受講）

医薬品安全管理責任者

- ・令和元年度特定機能病院管理者研修（令和元年 10 月 27 日、28 日受講）

医療機器安全管理責任者

- ・令和元年度特定機能病院管理者研修（令和 2 年 1 月 7 日受講）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

- ・ 基準の主な内容
 1. 臨床研修修了医師とすること
 2. 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有していること
 3. 人との信頼関係を重視し、社会規範、コンプライアンスを遵守できること
 4. 奈良県立医科大学附属病院の理念を実現するための熱意、戦略と実行力を有すること
 5. 組織管理能力等の当院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有していること
 6. 法人の運営について、他の役員と一致団結して、公立大学法人奈良県立医科大学の発展に貢献できること
 7. 医療従事者の新しい働き方についてリーダーシップを発揮できること
 8. 臨床研究を推進するための戦略と実行力を有すること
- ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）
- ・ 公表の方法 本学ホームページにおいて一般に公開

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				☒ 有 ☐ 無	
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無) ・ 公表の方法 本学ホームページにおいて一般に公開					
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係	
細井 裕司	本学理事長・学長	○	規定第3条(1)による	あり	
西浦 嘉彦	本学理事(総務・経営)		規定第3条(2)による	あり	
古家 仁	本学理事(医療) 附属病院長		規定第3条(3)による	あり	
高橋 美雪	本学看護部長 (副院長)		規定第3条(4)による	あり	
田中 康仁	本学教授 (副院長)		規程第3条第4号(2) 理事長による指名	あり	
阪上 雅史	兵庫医科大学病院 病院長		規定第3条(6)による 大学病院管理経験者	なし	
山上 裕機	公立大学法人和歌 山県立医科大学 附属病院長		規定第3条(6)による 大学病院管理経験者	なし	

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有 ☐ 無	
・ 合議体の主要な審議内容 医療法施行規則（平成30年厚生労働省令第70号）第9条の23の規定にかかる特定機能病院の管理運営に関する重要な事項及び病院経営・運営方針等院務に関する重要な事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 院内全所属の所属長が委員であるので、所属に持ち帰って周知を行う。 加えて、実務を担当している医局長が参加する医局長会でも、運営協議会での審議内容を議題とすることにより、広く周知を図っている。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無（ ☐ 有 ☒ 無 ） ・ 公表の方法 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無（ ☐ 有 ☒ 無 ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉川公彦	○	医師	附属病院長
庄 雅之		医師	副院長・診療科部長
田中康仁		医師	副院長・診療科部長
西尾健治		医師	副院長・診療科部長
橋口智子		看護師	副院長・看護部長
斎藤能彦		医師	診療科部長
室 繁郎		医師	診療科部長
吉治仁志		医師	診療科部長
杉江和馬		医師	診療科部長
中瀬裕之		医師	診療科部長
谷口繁樹		医師	診療科部長
桐田忠昭		医師	診療科部長
緒方奈保子		医師	診療科部長
北原 紘		医師	診療科部長
浅田秀夫		医師	診療科部長
藤本清秀		医師	診療科部長
岸本年史		医師	診療科部長
川口昌彦		医師	診療科部長
福島英賢		医師	診療科部長

長谷川正俊		医師	診療科部長
桑原理充		医師	診療科部長
大林千穂		医師	診療科部長
城戸 颯		医師	診療科部長
澤端章好		医師	診療科部長
鶴屋和彦		医師	診療科部長
高橋 裕		医師	診療科部長
川口龍二		医師	診療科部長代理
野上恵嗣		医師	診療科部長代理
田中利洋		医師	診療科部長代理
神野正敏		医師	診療科部長代理
笠原 敬		医師	各中央診療施設の長
山崎正晴		医師	各中央診療施設の長
松本雅則		医師	各中央診療施設の長
山尾純一		医師	各中央診療施設の長
玉本哲郎		医師	各中央診療施設の長
西久保敏也		医師	各中央診療施設の長
四宮敏章		医師	各中央診療施設の長
上村秀樹		医師	各中央診療施設の長
平井都始子		医師	各中央診療施設の長
吉川雅則		医師	栄養管理部長
赤井靖宏		医師	臨床研修センター長
笠原正登		医師	臨床研究センター長
辰巳満俊		医師	医療安全管理者
今村知明		医師	法人特命企画官
田中 忍		臨床検査技師	技師長
吉峰 正		診療放射線技師	技師長
畠中利英		歯科技工士	技師長
池田和之		薬剤師	薬剤部長
西浦嘉彦		事務	理事（総務・経営担当）
川田靖之		事務	事務長
藤田和成		事務	課長
畑 浩之		事務	課長
鶴谷幸彦		事務	課長
久保良佳		事務	室長
上野 聡		事務	課長
中谷好伸		事務	課長
廣田雅彦		事務	課長
吉村雅則		事務	室長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ☒ 無 ）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
病院規程・・・附属病院長が病院全般の管理運営を総括する事を規定
職務規程・・・附属病院長の病院における職務権限を規定
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長：病院長の補佐
事務長：病院長の下、病院事務を統括
院長ガバナンス支援タスクフォース：関係部署による病院長ガバナンス強化のサポート
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
病院事務のプロフェッショナル育成のための人事異動
診療情報管理士の資格取得の支援
法人職員の県派遣実務研修の実施

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ 有・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理に係る事項を監査し、是正措置を講ずるよう意見具申を行う。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☒有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（☒有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（☒有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有☒無） ・ 公表の方法：本学ホームページにおいて一般に公開						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を 付す）	選定理由	利害関 係	委員の要件 該当状況	
水本 一弘	和歌山県立医科 大学	○	和歌山県立医科大学附属病 院医療安全推進室長であり、 医療にかかる安全に関する 識見を有するため	有・ ☒ 無	1	
加藤 高志	加藤高志法律事 務所		医療に関する訴訟経験が豊 富であり、法律に関する識見 を有するため	有・ ☒ 無	1	
松井 忠昭	ボランティアグ ループ		病院の状況への理解が深く、 医療を受ける側の立場から の客観的意見を得られるた め。	有・ ☒ 無	2	
				有・無		
				有・無		
				有・無		

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

書面および実地により会計等に係る監査を実施

- ・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ☒ 無)
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会では附属病院の予算決算等の管理運営に関する審議事項があり、理事長（開設者）が病院業務に関与し監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 3 4 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 3 4 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ 無 ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 本学ホームページにおいて一般に公開